

# 広域で教育旅行を誘致

## グリーンツーリズム協学習会

### 滞在型観光について理解深める

名寄市

【名寄】名寄市グリーンツーリズム推進協議会（中野康則会長）の学習会が、25日午後6時から「よろいな」

で開かれ、有限会社アグリテック代表取締役の中田浩康さんを講師に、グリーンツーリズムと滞在型観光について理解を深めた。

会員ら20人が出席。中野会長が「都会の人が田舎への就学旅行な



グリーンツーリズムと滞在型観光について講演した中田さん

どで求めるものとして、モノからコトの消費へと移っている。農家への民泊などについて中田さんの助言をいただきたい」と挨拶。

同社は、学校の修学旅行などでの体験観光プログラムの企画会社。農村の持っている地域資源を生かし、グリーンツーリズムの持つ可能性を事業化するなど、学校と地域とのパイプ役を担う。

近年の教育旅行の動向で、高校生などの学習旅行における宿泊地として沖縄が1位に定着していることについて、「沖縄は10年前から民泊の受け入れ体制を整備してきた経緯がある」と説明。

北海道への教育旅行は、大阪、兵庫など関西方面の学校が多く訪れていること。教育旅行の目的としては、自然に触れる、農山漁村体験、地域産業見学などが目的の3割以上を占めているとし、「農業

体験を行いたいと考えている学校は多いのに、受け入れ体制が整っていないのが現状」と指摘。

また、教育旅行は見学型から体験・滞在型へ、さらに目的・狙いは地域の人々との交流や体験を通じた人間形成を主とするものへとシフトしているとした。

同社での教育旅行における農業体験の受け入れ例として、集団で1つの農場で実施するよりも、少人数のグループ単位での作業を望む傾向にあること。また、農村体験プログラムの受け入れ形態としては、日帰り体験よりも、ファームステイ型

（民泊）を希望する学校が大半を占めるとし、「滞在しながら地域の住民や文化、歴史に触れることを望む傾向が強い」と説明。

道内での主な学習旅行での農業体験受け入れ地区について、「上川北部・中部、十勝、美瑛・富良野など各地

に点在しているが、200人以上民泊の受け入れができるエリアは、ごく限られている。上川北部でも名寄や十勝、美深など自治体で協力するとまとまった人数の受け入れもできる」と可能性を強調。

教育旅行の行程で、「旭川以北は縦に長く、大人数が宿泊できるホテルが少なく、行程に入れにくいとする一方、農家民泊ができればエリアは問わないという学校もある」と指摘。

3年連続で道北を訪れている静岡県の高校生によるファームステイ体験を紹介。宗谷、留萌、上川北部の広域で農家民泊を実現しているもの。農業体験受け入れ実現へ、「名寄に来てほしいという生産現場の思いや、教育現場の思い、前後の旅行行程、空港へのアクセスや交通・移動手段などがうまくつながったときに実現できる」と語った。（問所）